

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

平和への祈り

編集委員会

論説

耳にやさしい保育を目指して

赤ちゃんと子ども

聞こえを守るために

志村洋子

小論

パペットと子どもたちの輝く瞳

東海林照子



2022 MAY

5

彼はベテルで神に出会い、その所で神は彼と語られた。

口語訳聖書・ホセア書12章4

「教育の完結は出会いである」（ボルノー）と言われますが、「人生は出会いからはじまる」と言ってもいいのではないのでしょうか。特に乳幼児期の出会いの経験は、時にその生涯に決定的影響を与え、原体験として刷り込まれていくとも言われています。

子どもたちはまず保育者と出会います。また、友だちと出会うのです。そして、自然との出会いも経験します。

出会いにはもう一つ、人生最高の出会いがあります。それはキリストとの出会い、神との出会いです。キリスト教主義の施設においてこそ起こりうる素晴らしい出会いです。今月の聖句、当時イスラエルは、互いに争っていた北のアッシリアとも南のエジプトとも密かに協定を結び、偶像礼拝にも慣れ親しむようになった為（その中心がベテル）、神が預言者ホセアを通し警告を与えている箇所です。実はこのベテルこそ、その昔ヤコブが真の神に出会った記念すべき場所だったのです。（創世記28:10-22参照）

ヤコブは家族からも神からも見離され天涯孤独と思ひ込んでしまいましたが、このような罪深い自分をも神はお見捨てにならず顧み、常に共にいてくださったのです。彼は神に出会い、いな神が彼に出会ってくださり、神に知られ、守られていることを知ってから、彼の人生観、世界観は変えられました。

「人は自分が誰のものであるかを知るまでは、自分が誰であるかを知らない」（スタンレー・ジョーンズ）。ヤコブは神との出会いを経験して初めて自分自身を知ることができ、人生の真のよりどころを見出すことができたのです。「出会いとは他者を介して自己と出会うこと」（小原信著『出会いの人間学』）であり、「出会いはその人の人生において、確固とした内的活力の根源となる」（同書）と言えましょう。

幼子がキリストと出会うことを祈りつづなされるキリスト教保育は、保育に携わるわたしたちがまず神とキリストとの出会いを感じとり、その恵みを受けとめることが大切ではないでしょうか。

（吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長）

1987年「キリスト教保育」誌4月号より

キリスト教保育

第638号5月号

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～



幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉新しい視点 深谷 潤

〈論説〉耳にやさしい保育を

目指して2 志村洋子

図書紹介 高橋かずみ 山口昇子

〈小論〉パペットと子どもたちの

輝く瞳2 東海林照子

聖書にきく・お話 篠田真紀子

表紙絵 田中楨子
カット 長野祥三 長縄えいこ 金井ユリ
中畝治子 松成真理子

18 14 13 6 4 3 2

〔カリキュラム〕

5月 月のねがい表

心にとめて 高梨美紀

0・1・2歳児 ひまわり幼稚園

実践からの学び 大久保めぐみ

絵本のとびら 菰田とみ子

心にとめて 小出馨

3・4・5歳児 鶴沼めぐみルーテル幼稚園

実践からの学び 相川徳孝

保育者の皆さんへ 清水美穂

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也

〈連載〉粘土あそび 江村和彦

目福 口福 耳福 池田真理

礼拝のお話 尾木一江

風 勝本正實／編集子 西嶋佳弘

連盟だより

平和の祈り 子ども達とその家族のために 編集委員会

60 59 51 50 44 42 41 40 34 32 31 30 24 22 21

